(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年7月31日

(前回公表年月日：令和3年10月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
大阪ビューティー アート専門学校	平成15年4月1日	真野 正道	〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3-8-29 (電話) 06-6300-5514				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	昼間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-6151				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士		
衛生	衛生専門課程	トータルビューティー科		平成17年文部科学省告示 第30号	—		
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき美容業界の関連分野において、活躍する人材を育成する為、必要される知識・技能を教授することを目的とする。						
認定年月日	平成28年2月19日						
修業年限	昼夜	至課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	62	118	124	6	0	14
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
542人	489人	3人	57人	51人	108人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～翌年3月31日		成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 シラバスに定められた基準に基づき、100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 評価の基準： 評価の方法： 試験、レポート、履修状況等を総合的に勘案して行う。			
長期休み	■学年始：4月1日 ■夏季：7月下旬から8月下旬までの約1か月 ■冬季：12月下旬から1月上旬までの約2週間 ■春季：3月上旬から4月上旬までの約1か月 ■学年末：3月31日		卒業・進級条件	卒業要件： 本校に修業年限以上在学し所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目担当表に示すとおりとする。 進級要件： なし			
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との電話連絡並びに、三者面談等を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。		課外活動	■課外活動の種類 生徒会・コンテスト部・BxShow委員会・謝恩会委員 卒業式委員・オープンキャンパススタッフ ■サークル活動： 有			

<p>就職等の状況※2</p>	<p>■主な就職先、業界等（令和3年度卒業生） 化粧品関連企業・エステサロン・ネイルサロン・ヘアメイク事務所等</p> <p>■就職指導内容 就職実習対策の授業内で履歴書や面接指導を行う。またクラス担任と地域別就職担当が連携し学生をサポートしている。</p> <table border="1"> <tr> <td>■卒業者数</td> <td>209</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>160</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>127</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>79</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>61</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学者数：42人 ・アルバイト者数：21人 ・就職活動中：12人 ・その他：7人 <p>(令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p>	■卒業者数	209	人	■就職希望者数	160	人	■就職者数	127	人	■就職率	79	%	■卒業者に占める就職者の割合				61	%	<p>主な学修成果 (資格・検定等) ※3</p>	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>きもの講師免許3級</td> <td>3</td> <td>179人</td> <td>179人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定3級</td> <td>3</td> <td>208人</td> <td>208人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラーコーディネーター検定ベーシック</td> <td>3</td> <td>208人</td> <td>208人</td> </tr> <tr> <td>トータルメイクアップ検定アドヴァンス</td> <td>3</td> <td>82人</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>JNAジェルネイル技能検定試験中級</td> <td>3</td> <td>46人</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>AEA上級認定エステティシャン</td> <td>3</td> <td>54人</td> <td>49人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）</p> <p>■自由記述欄</p> <p>卒業生 技能五輪国際大会2022 ビューティーセラピー職種日本代表選手に選抜</p>	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	きもの講師免許3級	3	179人	179人	サービス接遇検定3級	3	208人	208人	パーソナルカラーコーディネーター検定ベーシック	3	208人	208人	トータルメイクアップ検定アドヴァンス	3	82人	71人	JNAジェルネイル技能検定試験中級	3	46人	44人	AEA上級認定エステティシャン	3	54人	49人
■卒業者数	209	人																																															
■就職希望者数	160	人																																															
■就職者数	127	人																																															
■就職率	79	%																																															
■卒業者に占める就職者の割合																																																	
	61	%																																															
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																														
きもの講師免許3級	3	179人	179人																																														
サービス接遇検定3級	3	208人	208人																																														
パーソナルカラーコーディネーター検定ベーシック	3	208人	208人																																														
トータルメイクアップ検定アドヴァンス	3	82人	71人																																														
JNAジェルネイル技能検定試験中級	3	46人	44人																																														
AEA上級認定エステティシャン	3	54人	49人																																														
<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 59名 ■中退率 12%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者478名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者419名（令和4年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 学校生活不適應、進路変更</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任による定期的な面談の実施、スクールカウンセラーとの面談、保護者との連携</p>																																																
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生入学制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>																																																
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体： 受審年月： 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																																
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>https://www.sanko.ac.jp/osaka-beauty/</p>																																																

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1) カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2) 各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3) 教科書・教材の選定に関する事項
- (4) その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、美容分野専門委員会（別紙組織図：各専門委員会）にて提案される。提案に基づき、美容分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
河島 健	一般社団法人 一生美容に恋する会 代表理事	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	②
松原 進	株式会社ジャロ/モリオフロムロンドン 常務取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	③
森崎 成騎	JHOBSHOP MARCH 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	③
岸本 拓也			—
笠原 美聡			—
中川 由貴			—
鑛納 智子			—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

<p>(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回 (11月、5月) (開催日時 (実績)) 第1回 令和3年11月22日 16:30~18:00 第2回 令和4年 5月23日 16:30~18:00</p>
<p>(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 委員会にいただいた以下の意見について対応を行っている。 ①インターンシップ制度を充実させてはどうか ⇒対応：2023年度よりトータルビューティー科でインターンシップをスタートさせるため準備をしている</p>
<p>2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係</p>
<p>(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 実践的な指導を施すにあたり、美容業界における実績や、実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導能力を有する指導者が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。美容業界の求める人材要件に沿った計画、および評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。</p>
<p>(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 * 授業内容について（授業科目「施設実習」の授業を1年次に2週間程度、連携企業先で現場実習を実施し、美容業界に必要な接客力を習得する・2年次に週2時間実習授業を実施している。授業科目「着付け」の授業を2年次に年間を通して実施。美容業界において企業の方より、実践力を想定し「着物」に関する知識・技術を習得。そして授業を通して美容業（接客業）に欠かせない挨拶・マナー・言葉づかいなどの礼節並びに振る舞い・行動など所作を身につける。） * 評価について（連携企業による項目別の評価をもとに最終評価に反映させ、成績認定を行うものとする）</p>

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
サロンワークII-F	<p>①実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、お客様をお迎えして実践して、自身の技術向上を目指す。卒業後ネイリストとして、すぐにサロンで通用する技術や接客をマスターし、自身で開業できる知識を習得する。</p> <p>②「美」をとおして人を魅了することへの表現力を養うために、日ごろの授業のアウトプットとして、人を魅了することができる企画・立案力と実践力を身につける。</p>	株式会社ライフビューティー ネイルバー事業部
サロンワークI-D	<p>①実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、お客様をお迎えして実践して、自身の技術向上を目指す。卒業後ネイリストとして、すぐにサロンで通用する技術や接客をマスターし、自身で開業できる知識を習得する。</p> <p>②「美」をとおして人を魅了することへの表現力を養うために、日ごろの授業のアウトプットとして、人を魅了することができる企画・立案力と実践力を身につける。</p>	LVMHコスメティック株式会社 メイクアップフォーエバー
サロンワークI-E	<p>①実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、お客様をお迎えして実践して、自身の技術向上を目指す。卒業後ネイリストとして、すぐにサロンで通用する技術や接客をマスターし、自身で開業できる知識を習得する。</p> <p>②「美」をとおして人を魅了することへの表現力を養うために、日ごろの授業のアウトプットとして、人を魅了することができる企画・立案力と実践力を身につける。</p>	TBCグループ株式会社
サロンワークI-G	<p>①実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、お客様をお迎えして実践して、自身の技術向上を目指す。卒業後ネイリストとして、すぐにサロンで通用する技術や接客をマスターし、自身で開業できる知識を習得する。</p> <p>②「美」をとおして人を魅了することへの表現力を養うために、日ごろの授業のアウトプットとして、人を魅了することができる企画・立案力と実践力を身につける。</p>	株式会社ポーラ
施設実習	<p>本校のカリキュラムの一環として協力。ビューティー業界において実習を通じて学校で学んだ知識の総括を行う。また、現場における実践的な技術を修得するとともに、業界の動向や求められる知識レベルを把握することを主な目的とする。</p>	株式会社スリムビューティーハウス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日の美容業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	美容業界の今と自分に合ったサロンの見つけ方	連携企業等:	株式会社リクルートライフスタイル 千葉智之様
期間:	令和3年8月20日(金)	対象:	クラス担任30名
内容:	美容業界の現状やトレンド・離職理由やサロンの選び方		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学生と共に「幸せになるために必要なこと」「生きることの本质」を考える	連携企業等:	上田情報ビジネス専門学校 副校長 比田井 和孝様
期間:	令和4年3月25日(金)	対象:	全教職員 140名
内容:	幸せになるために必要なこと、どの様に考えればいいかを様々な著名人の発言をもとに解説		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	VR活用	連携企業等:	株式会社スリー
期間:	令和4年9月20日(火)	対象:	全教職員 140名
内容:	授業へのVR活用方法		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人材育成	連携企業等:	株式会社アルシュ
期間:	令和4年9月20日(火)	対象:	全教職員 140名
内容:	授業や面談などで生徒に関わる際に必要な、教員としての考え方や力に関する具体的内容		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	(11)国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会にいただいた以下の意見について対応を行っている。

① SNSの安全な使い方を教えることや集客に繋がる使い方を学び、より伝える能力を高めてはどうか
⇒ 対応: SNS・WEB・フオトスキルの授業を充実させる準備をしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
小峰 英樹	有限会社BIZ GATE 取締役専務	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
木田 康隆	ステーションカンパニー株式会社 本部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
村田 真利亜	和風エステサロン 桜Biscuit オーナー	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生
齋藤 貴雄	飛鳥未来高等学校 大阪キャンパス キャンパス長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	教育機関

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL : <https://www.sanko.ac.jp/osaka-beauty/disclosure/>

公表時期 : 令和4年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。

1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。
2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげること。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2) 各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要件、目指すべき人材像、取得可能資格、就職実績
(3) 教職員	教員数、組織、専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6) 学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL : <https://www.sanko.ac.jp/osaka-beauty/disclosure/>

公表時期 : 令和4年7月31日

授業科目等の概要

(衛生専門課程 トータルビューティー科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		サロンマナー I	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける。	1前	30	2	○			○			○	
2	○		カラーコーディネート I	ファッションコーディネートの現場で即戦力となるように色に関する知識、法則、技法を理論的かつ実践的に身につける。パーソナルカラーコーディネートの資格を取得する。	1前	30	2	○			○			○	
3	○		未来デザインプログラム I	ビジネス書「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1前	15	1	○			○			○	
4		○	デッサン・イラストレーション	物の形をよく観察する力と洞察力を養うことでより深く芸術を理解する。またデッサン力から応用することによりコミュニケーション能力を高める。	1前	30	2	○			○			○	
5		○	皮膚学 I	皮膚の働きやしぐみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ。 ・皮膚の基礎知識 ・美容上大切な皮膚の6つの働き	1前	30	2	○			○			○	
6		○	生理学 I	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する。 ・骨格系、筋肉系、神経系	1前	30	2	○			○			○	
7		○	栄養学 I	人間の栄養系の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する。	1前	15	1	○			○			○	
8		○	化粧品学 I	化粧品の法律上の扱いや分類、取扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
9		○	エステティック概論・衛生学・関係法規 I	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。	1前	15	1	○			○			○	
10		○	ベーシックエステ I	身体や皮膚の生理機能に基づいたファイナル・ボディトリートメントを学び、エステティックの流れ、基本の手技の意味を理解する。	1前	60	2		○		○			○	○
11		○	ベーシックネイル I	JNECネイリスト技能検定3級取得を目指し、ネイルケア～カラーリング・アートまでのネイル基礎を学ぶ。	1前	60	2		○		○			○	○
12		○	ベーシックメイク I	メイクアップ化粧品の特徴と適切な使用方法を理解すると同時に、スキンケア～名画アップテクニックをマスターしフルメイク基礎技術を身につける。	1前	60	2		○		○			○	○

13			○ 就職対策 I	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定後までの流れを指導する。	1 前	15	1	○		○	○			
14			○ モデル入門	様々なモデルの仕事を理解し、適性を高める。	1 後	30	1	○	○		○			
15	○		カラー コーディネート II	色に関する知識、法則、技法を理論的かつ実践的に身に付け、パーソナルカラーコーディネートの資格取得を目指す。	1 後	30	2	○	○		○			
16	○		未来デザイン プログラム II	ビジネス書「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1 後	15	1	○	○		○			
17			○ 就職対策 II	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定後までの流れを指導し、円滑な就職活動準備をする。	1 後	15	1	○	○		○			
18	○		サロンマナー II	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける。	1 後	15	1	○	○		○			
19			○ SNS・WEB・ フォトスキル	美容業界の現状やニーズを把握し、SNS・WEB・フォトスキルを活用したマーケティング・集客を理解し実践できるようになる。	1 後	15	1	○	○		○			
20			○ 皮膚学 II	皮膚の働きやしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ。 ・皮膚の基礎知識 ・美容上大切な皮膚の6つの働き	1 後	30	2	○	○		○			
21			○ 生理学 II	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する。 ・内分泌系・呼吸器系・循環器系 ・消化器系・生殖器系	1 後	30	2	○	○		○			
22			○ 栄養学 II	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する。	1 後	15	1	○	○		○			
23			○ 化粧品学 II	化粧品の法律上の扱いや分類、取扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。 ・フェイシャル、ボディ化粧品 ・化粧品に用いられる薬剤とその働き	1 後	15	1	○	○		○			
24			○ ベーシックネイル II	ベーシックネイル I に続き、JNEC ネイリスト技能検定2級課題であるネイルチップ（付け爪）の技術の基礎から応用までを学ぶ。	1 後	30	1	○	○		○			
25			○ ベーシックエステ II	エステティック機器の使用法・注意事項・禁忌事項を学び、肌・体の状態にあったフェイシャル・ボディトリートメントを理解する。	1 後	30	1	○	○		○			
26			○ ビューティー カウンセリング	メイク業界で仕事をしていくための基礎知識、各化粧品メーカーの分析、肌知識からのカウンセリングテクニック、接客技術を学ぶ。	1 後	30	2	○	○		○			
27			○ 検定メイク I	資格取得の為のメイク基礎知識技術を身に付け、カウンセリングメイク応用技術を習得する。	1 後	45	3	○	○		○			

28			○ ヘアアレンジⅠ	頭部、骨格の名称、ブッキングの方法等を学習した後、ホットカーラー、ピン打ち、黒ゴムの結び方、編み込み、コテの使い方等の基礎テクニック習得を目指す。	1 後	60	2		○	○	○								
29			○ パーソナルメイク	顔の分析、カラー診断、イメージに合わせて演習する。	1 後	45	1		○	○	○								
30			○ ベーシックメイクⅡ	ベーシックメイクⅠに学んだ基礎を生かしテーマに合わせたメイク技術を習得しメイク検定合格を目指す。	1 後	30	1		○	○	○								
31			○ エステティック カウンセリングⅠ	一人一人の心や体の悩みの相談に応じて人間的な理解を深めて、悩みを解決へと導く心理学に基づく療法を理解する。	1 後	15	1		○	○	○								
32			○ エステティック 概論・衛生学・ 関係法規Ⅱ	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。	1 後	15	1		○	○	○								
33			○ プロフェイシャルⅠ	トラブル別に使用する化粧品・機器を理解し、その使用方法・注意事項・禁忌事項を学び身体の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身に付ける。	1 後	60	2		○	○	○	○							
34			○ プロボディⅠ	トラブル別に使用する化粧品・機器を理解し、その使用方法・注意事項・禁忌事項を学び身体の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身に付ける。	1 後	60	2		○	○	○								
35			○ アロマセラピーⅠ-G	アロマセラピーの基礎知識、精油のプロフィール、トリートメント法、嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学、アロマセラピーに関わる法律問題・資格制度を学ぶ。	1 後	30	1		○	○	○								
36			○ アロマセラピーⅠ	アロマセラピーの基礎知識、精油のプロフィール、トリートメント法、嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学、アロマセラピーに関わる法律問題・資格制度を学ぶ。	1 後	15	2		○	○	○								
37			○ スカルプチュア	JNECネイリスト技能検定1級の課題の一つとなっている、。アクリル樹脂のパウダーとリキッドを使用した付け爪で短い爪の長さを出ず技術を学ぶ。	1 後	45	1		○	○	○								
38			○ ネイルケア& ネイルアートⅠ-F	実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、トラブルの回避を自身で考え対応でき、実践を通して技術を習得する	1 後	45	2		○	○	○								
39			○ 検定対策Ⅰ	JNECネイリスト技能検定2~3級とJNAジェルネイル技能検定初級の取得を目指し技術強化していく授業。	1 後	45	3		○	○	○								
40			○ ジェルネイルⅠ	JNAジェルネイル技能検定初級の取得を含め、ジェルネイルについての技能・知識を学ぶ授業。	1 後	45	1		○	○	○								
41			○ コンテストⅠ	ネイルのコンペションの出場を目指し、技術強化をしていく授業。	1 後	15	1		○	○	○								
42			○ フェイシャル& ボディⅠ	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学び、肌・体の状態に合ったトリートメントを理解する。	1 後	45	1		○	○	○								

148		○	インターンシップ Ⅲ-Ⅲ	現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。	2 後	45	1			○	○	○		
149		○	インターンシップ Ⅲ-Ⅳ	現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。	2 後	45	1			○	○	○		
合計						149	科目	246 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校に修業年限以上在学し所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 原則として教育課程に定められている順序で履修する。 なお、施設実習を必修科目とする。		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。